

心のめばえ

アヤと過ごすジイジの日記

<26>

著者／牟田 泰三
挿絵／橋本 礼子

5歳0カ月 積み木

昨半夏、先祖の墓参りということで佐賀へ行ったついでに、呼子の海辺に泊まって周辺観光をした。その時泊まったホテルの最上階には、呼子の海を見渡せる展望大浴場があった。アヤはこの旅行がとても楽しかったらしく、いつまでもこの話をする。

アヤは最近、久し振りに積み木を取り出して、このホテルとよく似た建物を作った。一見して「あつ、あれを作ったな」と分かるくらいよく出来ている。丸い輪状の積み木部材を屋上にのせ、大浴場を作っている。面白い着想だ。アヤは得意満面で、「ジイジ、壊しちゃ駄目だよ」とジイジに注意する。

ジイジ「はい、はい」
ところが、ところがどうだろう、自分の不注意で足でつまづき、壊してしまった。自分でしたことだから、誰のせいにもできない。ぐっと我慢するけど、涙がぼろり。涙が出ると鼻水も出る。あーあ、みじめ。悔しい。この悔しさ、どう処理していいか分からない。

ジイジ「自分で壊しちゃったから悔しいの？」
こつくりとアヤは頷く。でも、涙は止まらない。鼻も赤くなってきた。
いつかこんなことがあったような。そうだ、鉄棒でゴツンコした時だった。大人だってこんな気持ちになることはあるものだ。自分で失敗して後悔するとき、気持ちをどう処理していいか分からない。アヤにとっても永遠の課題であろう。



幼児の性格の形成は個性の発生だともいえる。他の幼児と比較して初めて分かるのが個性だろうが、そんなことはしたことがないから分からない。

天の川には無数の星があるが、これらの星々を観測すると、O、B、A、F、G、K、Mという7種類のスペクトル型に分類することができる。千億個以上ともいわれるほど多数の星が、七つにはば分類されてしまうとは驚くべきことだ。幼児の性格も分類可能なのだろうか。アヤは何型かな。

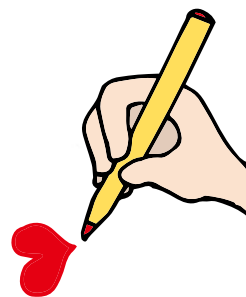
5歳3カ月 ハートのマーク

アヤが描いた絵を見ると、時々絵の中にハートのマークが書き加えられていることがある。ときには、ピンクや赤で彩られている。「このハートマークは何のために書いたの？」と聞くと、事も無げに「楽しいことよ」と言う。

ははあ、自分が描いた絵が、楽しいとか嬉しいとかいう明るい気分を表現しているのだということを主張するために、ハートマークを描いているんだ。心の状態を絵にすることを考えているんだ。自分の気持ちや感情を表現したいという意欲が芽生えている。大げさといえば、芸術の始まりと言ってもいいのかな。

ジイジ「自分の気持ちを絵にしたいんだね」
アヤ「うん」
ジイジ「アヤは心って知ってる？」
アヤ「知らん」

と、つれない返事。心という言葉は知らなくても、心を意識して絵を描いていることは確かだ。対象を単純に写真のように写し取るだけの絵ではなくて、自分の心情を投影して絵を描くという、より高いレベルのお絵かきへと進化が始まっている。



「心のめばえ」のバックナンバーは、牟田のホームページでも読むことができます。下のQRコードをスマートフォンなどで読み取ると簡単にアクセスできます。



ジイジへのお便り

エッセーを読んだ感想などを、お寄せください。
weekly@presnet.co.jp
「心のめばえ」係へ

プロフィール むた・たいぞう 1937年、福岡県生まれ。九州大学理学部卒業、東京大学大学院物理学専攻修了、理学博士。京都大学助手・助教授、広島大学教授・学長、福山大学学長などを歴任。主な著書に「語り継ぎたい湯川秀樹のことば」(丸善出版)、「電磁力学」(岩波書店)、「量子力学」(裳華房)などがある。東広島市在住。